

第9回学校再編計画策定委員会 記録

- 1 日 時 令和3年1月13日（水）13：30～16：20
- 2 場 所 牧之原市役所相良庁舎4階大会議室
- 3 参加者 10人出席（全員出席）
島田桂吾、横田恭子、櫻井真弓、小柳津敏法、石神綾子、服部真和、種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香（順不同・敬称略）

4 概要

学校再編計画素案についての協議と市民意見の聴取方法についての検討を行った。学校再編計画素案については、今回の学校再編計画策定委員会の意見を踏まえて事務局が修正する。市民意見聴取方法としては、市民意見交換会を中止し、インターネットでの意見募集と中学生及び保護者に対してWEBアンケートを実施することが決まった。

意見募集及びアンケートを実施するにあたり、修正した学校再編計画素案（案）と情報提供資料等の協議が必要となるが、会議の開催に代えて、メールによる審議とすることが決まった。

5 内容

（1）学校再編計画素案について

計画素案の内容の精査、構成、配慮すべき事項の検討を行った。

- 前回のものより、思いが伝わりやすく、見やすくなっている。
- 学校再編計画をつくったあとに、学校ごとの学校施設整備基本構想を検討することになると思うので、計画自体はこのくらいの内容や表現でよい。付け加えたいところは配慮事項として盛り込む。
- 目指す学校像の概念図を1ページ分使い見やすくする。
- 子どもが行きたくなるのが一番大切。たくさんのお友だちがいて、施設を集約することでよい施設・設備になり、行きたいと思ってもらえる。表記順番を変える。
- 学校区のところを、市と2つの学校組合に分けて表記したのは、配慮されていてよい。
- 全体の構成として、端的な表現で言いたいことを伝え、もっと知りたい人は説明を読めば分かるというものにする。
- 新しい学校になってカリキュラム等がスタートするのではなく、ソフトは今からやっている、やっていくということも分かるようにした方がよ

い。

- 専門用語については、用語説明、言い換える。若い保護者が読んでも分かるようにする。
- 機能面に照準合わせる。
- 基本方針と目指す学校の概念図を合わせ、構成順を変える。策定委員会でどんな学校にしたいかを議論してから他の議論に入ったので、概念図の意味と込められた思いを書き、これを現在の学校で実現することは難しいので、実現するために再編するということが伝わるようにする。
- 「みんなの学校」はこの委員会で出てきた言葉。その経緯を大事にする。子ども主体の学校。特別支援については、方針の解説と配慮事項の両方に入れる。
- 榛原中学校周辺の洪水による浸水の話があるが、今回はエリアを選定するだけである。菅山小学校周辺については、想定していなかったが、相良地域のエリアに含まれるかどうかについては指定するわけではない

(2) 市民意見聴取について

- 第9回会議では、コロナ禍であるが、伝わりやすさ、保護者の率直な意見を聴けるという面から市民意見交換会を開催するという事になった。
- 保護者の参加のしやすさも考慮し、平日の夜と休日の昼の時間帯に意見交換会を予定したが、コロナの感染状況を考えると意見交換会に参加することに不安を持つ保護者が多いのではないかとことから意見交換会は中止とする。
- 代わりに、対象を中学生、0歳から中学生までの子どもを持つ保護者としたアンケートをそれぞれ実施する。
- 実施方法は、牧之原市のまきはぐシステムを活用し、WEBアンケートとする。
- 中学生向けアンケートは記述式、保護者アンケートは選択式と記述式を合わせたものとする。
- アンケートの周知は、学校、幼稚園、保育園、こども園、子育て支援センター、各種健診会場にて、チラシを配布するとともに、市のホームページ及びLINEでお知らせする。
- 同時に、さらに広く意見を聴くことができるよう、インターネットでの意見募集も併せて行う。